



【ジーンファームの力で生物と文化の多様性を子どもたちに繋ぐ】

一般社団法人 樹木医甚兵衛



クマノザクラ (*Cerasus kumanoensis*)は2018年に新種として報告された野生のサクラです。紀伊半島南部の限られた地域にのみ自生することが確認されています。

「あがら」とは紀南地方の方言で、「自分たち」を意味しています。新種として報告されたクマノザクラですが、自生する地域の人々にとってはごく身近な存在でした。「あがらの桜」とは、昔から古座川の人々が見守り続けてきたクマノザクラのことです。

‘染井吉野’よりも開花時期が早く、淡紅色の花弁が美しいことが特徴です。枝ぶりが繊細で樹形や紅葉も美しく、栽培品種と比較しても劣らない鑑賞価値があります。

ウサギやシカなどの獣害や、造林・緑化などの人為的な植栽の影響により、長期的に自生個体が減少していくことが懸念されています。

肥培管理により、平均では実生から5年程度（最短で3年）で開花していますが、お花見をするような状態になるには10-15年程度の期間が必要になると想定されます。



ジーンバンク

ジーンとは遺伝子、バンクは銀行、つまり遺伝子を保存するための貯蔵庫です。
農産物や医薬品など、産業として活用されることが目的とされる場合がほとんどです。
地域の自然植生を保護するために、誰でも活用できるような施設はほとんどありません。

DNA

受精卵
精子 卵子

微生物

スヴァールバル
全地球種子保存庫

シードバンク

農業生物資源
ジーンバンク

ジーンファーム

ファームとは農場です。
私たちの目指すジーンファームは、地域の固有種を保存、増殖する目的を備えた植物園です。
保管庫ではなく、鑑賞して価値を共有することができます。



【自然環境の荒廃】

人々の生活様式の変化に伴い、山との向き合い方も次第に変わってきました。里山の環境は悪化し、荒廃しています。

一見豊かに見える古座川町でさえも、生態系は多様性を失いつつあります。すべての生物はひとつに繋がっており、自然環境の荒廃は私たち自身の荒廃を意味しています。

開発という行為は利便性を向上させますが、目先の利益ばかりを優先してはいけません。問題を長期的に捉え、いま見えていないものを見る必要があります。

ひとつの種が失われるということは、私たちの一部分が失われるということです。

【地域で護る】

現存するジーンバンクはいずれも農産物や医薬品生産を目的とした施設であり、そのほとんどが地域の生態系を保全する機能を有していないのが現状です。

商業目的の対象とはならない種こそ、誰かが適切に保護しなくてはなりません。

自らの意思で移動することのない植物は、地域によって生殖隔離された状況にあるため、保護・保全は地域ごとにきちんと考えて行う必要があります。



【クマノザクラをきっかけに】

私たちは活動のシンボルとしてクマノザクラを掲げていますが、桜だけが守られれば良いとは考えていません。特定の地域のみで自生する固有種にとっては、小さな地域絶滅がそのまま種の絶滅へと直結します。

クマノザクラという注目されている種の保護を前面に押し出すことで、地域の生態系全体を保護する大きな流れを生み出そうと考えています。



【地域性苗木の提供】

植物が本来の自生環境の中でのびのびと生育することができるのであれば、それは最も理想的なことです。

ジーンファーム内で安定的に増殖することが可能となった植物については、適切な方法で自然植生に戻していけるよう努めます。



【最後の居住者】

古座川町の奥地にある小森川集落は、2022年5月現在1世帯1名のみが居住する限界集落です。その最後の住人の御子息から、「集落内に所有している土地を寄贈するので、クマノザクラの咲く花の郷として土地を活用してほしい。」というお話をいただきました。それを受けて、2021年の3月本格的に小森川保存林という名称で、ジーンファームを整備する計画をスタートさせました。

【隔離された立地条件】

樹木園として植物を保存し、母樹林としての機能を発揮させるためには、周囲にどのような植物が存在しているかということも重要な問題になります。私たちがまず取り組んだのは、保護する在来種に対して影響を与える可能性が高い外来種を除去することでした。これによって、適切なゾーニング（隔離）が可能となりました。人為的に持ち込まれたり、品種改良によって生み出された外来種は、在来種に対して遺伝的に悪影響を与える可能性があります。人が生活している場所には少なからず存在しており、それを整理することはとても難しいことです。全国的にもこのような条件を準備できる場所は極めて少なく、小森川集落は自生種に残された最後のチャンスとも言えます。耕作放棄地や倒壊した住居跡地を片付け、ジーンファームとして再整備することで、効率の良い土地活用を進めています。



【守るべき文化】

小森川集落に鎮座する神玉神社では、毎年必ず12月5日に例祭である「鯛釣り祭り」を開催しています。山奥の集落であるにもかかわらず、なぜか鯛を釣ったり弓を射るなど独特の仕草で神事を行う奇祭です。一時期は祭りの存続も断念されましたが、樹木医甚兵衛の協力によって継続させることができました。守るべき文化があることも、小森川集落でジーンファームプロジェクトを進める後押しとなっています。





ジーンファームの整備

紀南地方は固有種の宝庫です。小規模な地域絶滅も、固有種にとっては種全体の絶滅に直結する危機となります。

樹木園という鑑賞できる形で美しい植物を保存していくことによって、多くの人にこの活動の意味や価値について知ってもらいます。

集落文化の保存

小川流域の最上流部にある小森川集落は、町内でも有数の清流があります。

小森川集落に鎮座する神玉神社では、奇祭として知られる「鯛釣り祭り」が開催されています。文化の保存にも寄与しています。

ナショナルトラスト運動

貴重な自然環境をとどめている土地や優れた文化財を、地域の住民らが募金を集めて買い取ったり寄贈を受けたりして保護・管理していく運動のこと。

僅かに残された天然林を買収し、自然のままの状態での保存する試みにも積極的に関わりたいと考えています。

自然生態系の回復

安定的に保存、増殖が可能となった地域性苗木を活用して、経済的に採算の取れない人工林を再び豊かな自然林として蘇らせる樹種更新を行います。今までにない新たな更新方法も研究しています。



【クマノザクラ】

クマノザクラの挿木については、研究を始めた当初の2016年は0.25%とかなり低い活着率でした。その後研究を重ね、2021年には最大で約60%にまで上昇しました。今後穂木採取の母樹林を整備し、ミストルームなどの設備を充実させれば、さらに活着率を上げることが可能であると考えています。挿木によるクローン苗の増殖に成功したことで、地域絶滅の回避、文化的に価値のある個体の保存、観賞用に優れた形質を有する個体の商業的活用、そしてそれらの基盤となる母樹林の整備に向けて、大きく前進することができました。



【ヤマアジサイ】



【アサマリンドウ】



【タニジャコウソウ】



【キイジョウロウホトトギス】



【シチョウゲ】



【オンツツジ】



- 2015年 横浜から和歌山県の古座川町に移住し、クマノザクラの調査研究などに関わる
- 地域の生態系が衰退していく現実を目の当たりにし、保全を目的とした増殖に取り組む
- イベントや講演などによる普及啓蒙活動と植物の保全活動に務める
- 2018年 鯛釣り祭りの開催を支援
- 2019年 一般社団法人樹木医甚兵衛を設立
- 2020年 小森川での植樹活動を開始
- 2021年 小森川保存林(ジーンファーム)の整備事業を発表
- 2021年 セレッソ大阪の本拠地、桜スタジアムでクマノザクラの植樹イベントを開催
- 多数のメディアで活動が紹介され、認知度が高まる



朝日新聞	天声人語	2019.4.1
紀伊民報	多数	
熊野新聞	多数	
白浜新聞	多数	
NHK	ギュギュっと和歌山	2021.1.5
NHK	県内ニュース	2021.1.12
NHK	ギュギュっと和歌山ことしにかける	2021.1.20
NHK	おはよう関西	2021.1.26
NHK	関西ニュース	2021.2.28
テレビ和歌山	6Wakaイブニング	2021.2.11
テレビ和歌山	紀伊半島の森で	2021.5.7
テレビ和歌山	紀伊半島の森で(再放送)	2022.1.1
関西テレビ	報道ランナー関西桜ストーリー	2022.4.12
ZTV	多数	
WBS和歌山放送		
FM TANABE		
		など



「小森川サクラ祭り」の開催

紀南地方の自然生態系を保護するための
ジーンファームを整備します。
地域の植物を鑑賞可能な形で保存すること
により、地域の人々の関心や理解を高め、
たくさんの協力を得ていきます。



神玉神社「鯛釣り祭り」の支援

保存林として美しい花を觀賞できるように
なれば、お花見のためにたくさんの来客を
見込むことができます。
同時に「鯛釣り祭」を継承していくことで、
限界集落における地域の文化を継承し、次
の世代に繋いでいきます。

遺伝子の保存と地域性苗木の生産

保存林内で維持することが可能となった種
は、地域性苗木として再び山に植栽したり、
緑化材料として活用するために生産を行いま
す。



桜スタジアム 植樹と管理

クマノザクラをはじめとする紀南地方の魅力
を広く伝えるためのPR活動と、植物を植
えるとはどういうことか、緑化が自然生態
系に与える影響などについて、正しい知識
を普及するための環境教育を積極的に行いま
す。





【設備・資機材】

植物を維持し、保存林を維持していくためには、様々な機材を使用します。トラックやチェンソー、刈払機などはもちろんのこと、それらを保管するための倉庫も必要です。遮光設備・ミストルーム建設ができれば、保存・増殖できる植物種は飛躍的に増えます。今年度中にビジターセンターを建築する予定となっており、現在はコンクリート基礎が出来上がった状態です。

協賛いただいた田辺市の製材会社から、建築のための構造材を寄贈していただけることになっています。

これまで集めてきた植物に関する専門書や資料を開示する図書館として、また顕微鏡などの機材を設置した学習の場として活用していきたいと考えています。

これらを進めるためにも資金が必要です。



【人件費】

苗木の管理やファームに植栽された植物を維持していくためには、保守のための様々な作業が必要となります。

特に水分管理は怠ればそれまでの努力がすべて無駄になるため、一日たりとも気を抜くことが許されません。

【獣害対策】

優良な苗を栽培しても、ウサギやシカなどの食害によって一晩ですべてが水泡に帰すという経験を、これまで何度も味わってきました。

努力を無駄にしないためには適切な獣害対策が不可欠となり、そのための資材が必要です。



【用地買収】

植物はそれぞれ特性が異なり、生存できる環境は限られています。そのために多様な環境を保存していくことが重要となります。安定的に維持していくために、集落内の放棄地や、近隣の山林を買収していくことも必要になります。

最終的にはナショナルトラスト運動として自然環境を保全していくことも考えています。



生態系をまもり、繋ぐ。

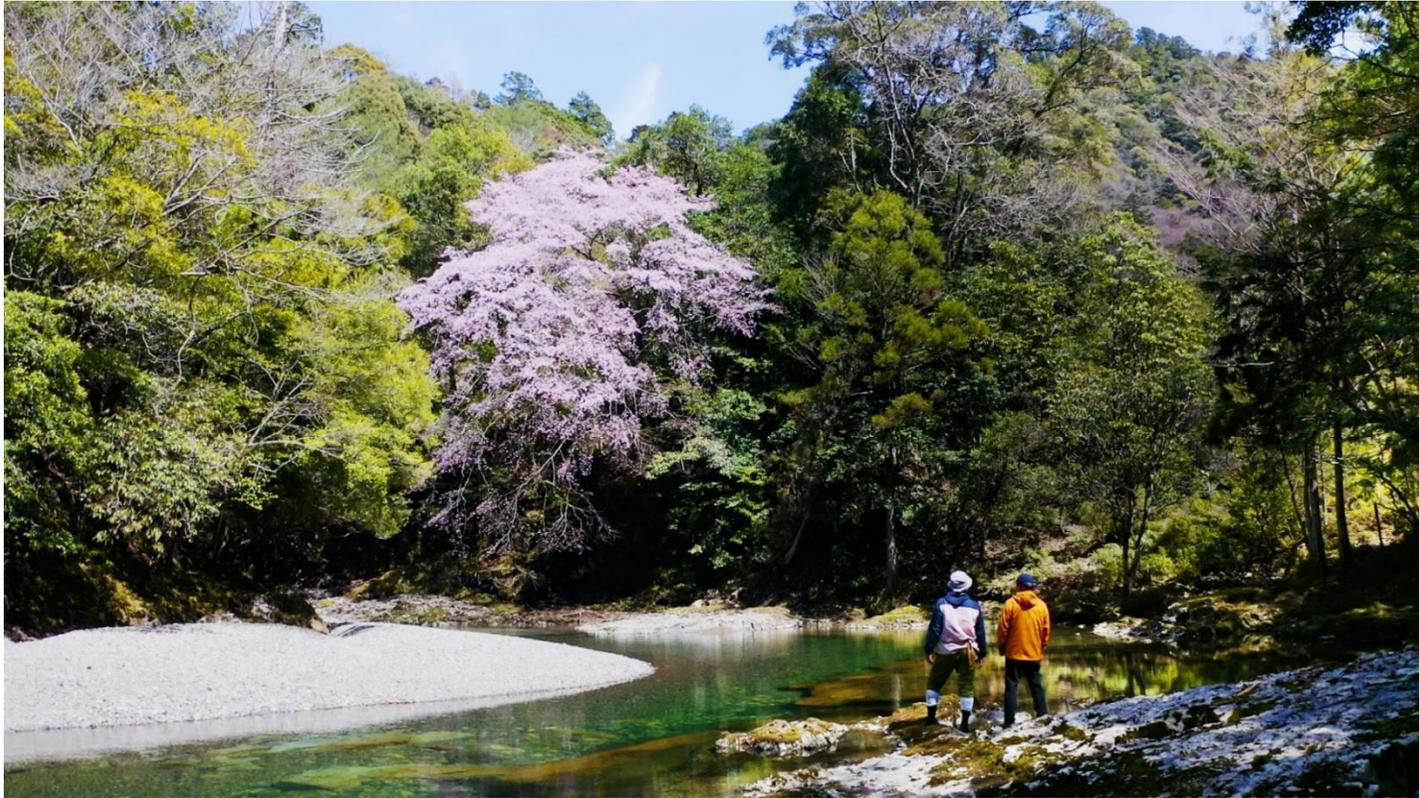
文化をまもり、繋ぐ。

私たちの活動は植樹の本数や植栽の面積、
イベントの集客数などを競うものではありません。

経済性を優先するのではなく、
正しいプロセスを歩みながら地域の生態系と文化をまもり、
次世代へと繋ぐということを第一の目的としています。

そのため公益性の高い事業を行っているにもかかわらず、
補助金の枠組みに収まることができません。

自己資金による活動を余儀なくされていますが、
これからも信念をもって活動を続けていきます。



古座川町では例年3月15日前後にクマノザクラの開花ピークが訪れます。
3月21日(春分の日)には、小森川保存林内で小森川サクラ祭りを開催しています。

小森川集落の神玉神社では、毎年12月5日に鯛釣り祭りを開催しています。

小森川集落での樹木医甚兵衛の活動と
野生のサクラだけが見せる本当の美しさをぜひ見に来てください。



あがらの桜をまもるんや！
クマノザクラの桜守
小森川保存林の活動紹介 動画公開中です。

WEBサイト



Facebook



公式ライン



✉ : jumokui.jimbe@gmail.com

URL : <https://jumokuijimbe.com>

©2022.12 一般社団法人樹木医甚兵衛